

第2学年商業科 シラバス（家庭）科

愛媛県立大洲高等学校

教科	家庭	科目	家庭総合	学年	2	類型	商業科
単位数	2	教科書	高等学校家庭総合 ともに生きる・持続可能な未来をつくる	出版社	第一学習社		
副教材	家庭科ノート						

学習の到達目標

<p>生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な科学的な理解を図るとともに、それらに係る技能を体験的・総合的に身に付けるようにする。</p> <p>(2) 家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを科学的な根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を養う。</p> <p>(3) 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、生活文化を継承し、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を養う。</p>

授業の概要

<p>人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住の生活の科学と文化、持続可能な消費生活・環境、ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動に関する知識と技能を習得させ、家庭や地域の生活課題を解決するとともに、生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を育てます。また、学習内容に応じて実験・実習を行い、一斉指導、個別指導、グループ指導を行い、視聴覚教材も多く活用します。</p>
--

評価の観点・方法

次の3つの観点に基づき、各学期ともに定期考査までの学習内容のまとめりに、下記の評価項目により観点ごと総括した評価結果を合計して、それを基に学期末・学年末に総括（評定）します。

	① 知識・技能	② 思考・判断・表現	③ 主体的に学習に取り組む態度
評価規準	人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な科学的な理解と、それらに係る技能を体験的・総合的に身に付けている。	家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを科学的な根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を身に付けている。	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、生活文化を継承し、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を身に付けている。
評価の対象	・定期考査 ・ワークシート ・授業時の観察 など	・定期考査 ・ワークシート ・課題（レポート・作品など） ・授業時の観察 など	・ワークシート（振り返りなど） ・課題（レポート・作品など） ・授業時の観察 など
備考	<p>・観点別学習状況は3段階で表し、3段階の表示は、A、B、Cとし、科目の目標に基づきその達成状況を「十分満足できる」：A、「おおむね満足できる」：B、「努力を要する」：Cとして評価します。</p> <p>・「評定」は、上記「観点別学習状況の評価」を総括し、その結果を5段階で表します。</p> <p>5 … 十分満足できると判断できるもののうち特に程度の高いもの 4 … 十分満足できると判断できるもの 3 … おおむね満足できると判断できるもの 2 … 努力を要すると判断されるもの 1 … 一層努力を要すると判断されるもの</p>		

年間学習計画

学期	単 元	学習内容とねらい（内容のまとめりごとの評価規準）	定期考査
1 学期	1 章これからの生き方と家族	<ul style="list-style-type: none"> ・人の一生について、自己と他者、社会との関わりから様々な生き方があることを理解するとともに、自立した生活を営むために、生涯を見通して、生活課題に対応し意思決定をしていくことの重要性について理解している。 ・生涯を見通した自己の生活について主体的に考え、ライフスタイルと将来の家庭生活及び職業生活が適切にできる。 ・生涯発達の視点から各ライフステージの特徴と課題について理解するとともに、青年期の課題である自立や男女の平等と協力、意思決定の重要性について理解している。 ・家族・家庭の機能と家族関係、家族・家庭と法律、家庭生活と福祉などについて理解するとともに、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会との関わり、家族・家庭を取り巻く社会環境の変化や課題について理解している。 	1 学期 期末考査
	6 章衣生活をつくる	<ul style="list-style-type: none"> ・衣生活を取り巻く課題、日本と世界の衣文化など、被服と人との関わりについて理解している。 ・ライフステージの特徴や課題に着目し、身体特性と被服の機能及び着装について理解するとともに、健康と安全、環境に配慮した自己と家族の衣生活の計画・管理に必要な情報の収集・整理ができています。 ・主体的に衣生活を営むことができるよう目的や個性に応じた健康で快適、機能的な着装や日本の衣文化の継承・創造について考察し、工夫している。 	
	ホームプロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> ・自己の家庭生活や地域の生活と関連付けて生活上の課題を設定し、解決法を考え、計画を立てて実践する。 	
2 学期	8 章経済生活をつくる	<ul style="list-style-type: none"> ・家計の構造について理解するとともに生活における経済と社会との関わりについて理解している。 ・生涯を見通した生活における経済の管理や計画の重要性について、ライフステージごとの課題や社会保障制度などと関連付けて考察し、工夫している。 ・消費生活の現状と課題、消費行動における意思決定や責任ある消費の重要性について理解するとともに、生活情報の収集・整理ができています。 ・消費者の権利と責任を自覚して行動できるよう、消費者問題や消費者の自立と支援などについて理解するとともに、契約の重要性や消費者保護の仕組みについて理解している。 ・自立した消費者として、生活情報を活用し、適切な意思決定に基づいて行動できるよう考察し、責任ある消費について工夫している。 	2 学期 期末考査
	7 章住生活をつくる	<ul style="list-style-type: none"> ・住生活を取り巻く課題、日本と世界の住文化など、住まいと人との関わりについて理解している。 ・ライフステージの特徴や課題に着目し、住生活の特徴、防災などの安全や環境に配慮した住居の機能について科学的に理解し、住生活の計画・管理に必要な技能を身に付けている。 ・家族の生活やライフスタイルに応じた持続可能な住居の計画について理解し、快適で安全な住空間を計画するために必要な情報を収集・整理できている。 ・主体的に住生活を営むことができるようライフステージと住環境に応じた住居の計画、防災などの安全や環境に配慮した住生活とまちづくり、日本の住文化の継承・創造について考察し、工夫できている。 	
	2 章次世代をはぐくむ 1 節子どもの発達 2 節子どもの生活	<ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児期の心身の発達と生活、子どもの遊びと文化、親の役割と保育、子育て支援について理解し、子どもの発達に応じて適切に関わるための技能を身に付けている。 ・子どもを生み育てることの意義や、保育の重要性について考え、子どもの健やかな発達を支えるために親や家族及び地域や社会の果たす役割の重要性を考察し、子どもとの適切な関わり方を工夫できる。 	
3 学期	2 章次世代をはぐくむ 3 節子育て支援と福祉 3 章充実した生涯へ	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもを取り巻く社会環境の変化や課題及び子どもの福祉について理解している。 ・高齢期の心身の特徴、高齢者の尊厳と自立生活の支援や介護について理解し、高齢者の心身の状況に応じて適切に関わる。ための生活支援の関する技能を身に付けている。 ・高齢者を取り巻く社会環境の変化や課題及び高齢者福祉について理解している。 ・高齢者の自立生活を支えるために、家族や地域及び社会の果たす役割の重要性について考察し、高齢者の心身の状況に応じた適切な支援の方法や関わり方を工夫できる。 	学年末考査
	4 章ともに生きる	<ul style="list-style-type: none"> ・生涯を通して家族・家庭の生活を支える福祉や社会的支援について理解している。 ・家庭と地域との関わりについて理解するとともに、高齢者や障害のある人々など様々な人々がともに支えあって生きることの意義について理解する。 ・家庭や地域及び社会の一員としての自覚をもって共に支えあって生活することの重要性について考察し、様々な人々との関わり方を工夫している。 	